

鹿児島県支部

「鹿児島県の建設業における新分野進出の現状と課題」

今回の調査研究は、社団法人鹿児島県建設業協会の協力を得て、記名アンケートを実施し、分析を行った。鹿児島県建設業協会では、2003年3にも新分野進出状況のアンケート調査を行っており、3年間の変化を見ることがと建設業者の新分野進出への意欲を明らかにすることを目的とした。

建設業は鹿児島県の基幹産業であり、中小企業診断協会鹿児島県支部からも4人のアドバイザーを登録しているが、建設業を取り巻く経営環境は厳しくなる一方にもかかわらず相談件数は低調である。今回は、4人とも調査研究メンバーに加わった。

<アンケート結果概要>

- (1) 回収状況は、2003年3月の会員数1,066、回答数720、回答率67.5%に対し、2006年10月は会員数943、回答数564、回答率59.8%となった。ただし、本拠地が県内にない5社を除外し、分析対象としたデータは559社である。
- (2) 新分野進出状況は2003年が進出済み17.8%に対し、2006年は24.3%と、ある程度新分野進出が進んでいるように思われる。
- (3) 「進出していない企業」の新分野進出の意向は、2003年は82.1%のうち、「進出しようと思わない企業」が3/4、「進出しようと思う企業」は1/4であったが、2006年は71.8%のうち、「進出しようと思わない企業」が40.1%、「進出しようと思う企業」が59.9%で、「進出しようと思わない企業」が多数派から少数派に移っている。「進出しようと思わない企業」でも、もうしばらく模様を見るという回答が多く、意識がかなり変わってきているようである。
- (4) 新分野進出済み企業は、「企業数」として、鹿児島市地区の減と加治木地区の増が大きい。その結果、加世田地区が鹿児島市地区を上回った。「進出率」で見ると、日置地区が高い。相対的に都市部で低く、郡部で高い感がある。「規模」を資本金で比べると、資本金5,000万円以上の企業の割合が12.7%から6.6%と減少しており、1,000万円未満も14.2%から11.0%と減っているが、1,000万円以上5,000万円未満の割合は増えている。「従業員規模」は、10人以内が9.4%から20.6%に増え、101人以上が10.0%から2.2%に減っている。「進出した業種」は、2003年に環境関連が36.7%と圧倒的に多かったが、2006年22.1%となり、農林水産業分野が2003年7.8%から2006年24.3%と増え、追い越したかたちである。「進出へのきっかけ」は、「建設業への危機感」が、2003年34.4%に対し、2006年は36.8%と大差ない。「経営トップの思い」は25.8%から31.6%と少し増となり、「経営資源の有効活用」は21.1%から14.0%へと減っている。

全体として新分野進出の成果はこれからという状況であるが、前向きな企業は生き残りをかけて色々模索している。一方、模様眺めの企業もまだ多く、手遅れの心配が残る。